

令和4年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す力が身に付いている。
- 表現の技法について理解することができている。
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解することに課題がある。

【数学】

- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が身に付いている。
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明する力が身についている。
- 簡単な連立二元一次方程式を解く問題に課題が見られる。

【理科】

- 考察の妥当性を確かめるために、測定値の増やし方について、測定値の範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうか説明する力がついている。
- 実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を記述することができている。
- 物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明することに課題が見られる。

2 生徒質問紙に関する結果の概要

- 人が困っているときは、進んで助けようとする態度が身に付いている。
- 昨年度、授業においてタブレットなどのICT機器の使用率が高い。
- 家で自分で計画を立てて勉強することに課題がある。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 定期考査における記述式問題の設定と授業改善の推進
- ・ 学年で取り組むスモールステップによる小テストの実施
- ・ ICTを効果的に活用する授業の推進

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 考えの根拠を明確にした交流活動を位置付けた授業づくり
- ・ 情報過多の問題文や複数選択肢で解答する定期考査問題の作成
- ・ 九大生と学ぶ「伊都の学び舎」の定期的な実施

(2) 生徒質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 「わかった・できた」を実感する授業終末の振り返り活動の充実
- ・ 生徒会ボランティア活動の実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 日常生活の事象を教科特有の見方・考え方を働かせて解決する単元の実践
- ・ 主体的に家庭学習を行い、心身のリズムを整える規則正しい生活の推進